

令和3年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 一粒園認定こども園

観点	②異年齢集団での遊びや生活を通して社会性を培う教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前は年長児が乳児クラスの午睡後の着替えを手伝ったり、おやつのご用意をしたり、異年齢で一緒におやつを食べたりする時間を持っていた。また、一日に一度は一つの部屋に全クラスが集まってきて歌を歌ったり、ゲームを楽しんだりする機会が毎日のようにあった。しかし、現状はコロナ禍の影響もあり、クラス単位での活動に切り替わってしまい、触れ合い遊びをする機会がほとんどなくなった。たまに2クラスぐらいで遊ぶが、年上の子でも兄弟のいない子や兄弟の位置が自分が下の場合、小さい子どもへの接し方が分からず戸惑っている姿や年下の子もいきなり手を繋がれたりすることに抵抗を示す姿等がある。</li> </ul>
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人になって暮らしていく社会では様々な人と関わることになる。人と関わることは子どもが成長していくプロセスで身につけなければいけない力である。</li> <li>・異年齢保育においては子どもがそれぞれの持ち味を生かし、家庭や家族のような雰囲気の中で生活することによって競争ではなく、大人が伝えることが出来ないものを自分たちで教え合い、助け合い、気付き合い、伝え合い、高め合っていくことを目指して保育をしていきたい。</li> </ul>
目標達成に向けた具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の状況の中で、なかなか具体的な取組の内容を挙げるのは難しいが、やはり、一番に考えないといけないのは子どもたちの安全面である。クラス単位での活動が多い中、少人数の縦割りグループを作り、ゲームや触れ合い遊びなどの交流する機会をもったり、年長児も2～3人単位のグループで着替えの補助やおやつ準備などを手伝いに乳児組を訪問したりするなど、密にならない程度の活動を実践している。</li> <li>・全員がそのような活動を得意とするわけではないので、年上の子どもが遊びを独占したり、逆に年下の子どもに合わせすぎて年上の子どもが物足りなさを感じてしまうなどのリスクがあったりすることも理解しておき、保育者が注意深く見守り、関わり方等を適切に導いていくことも必要と思われる。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期保育で「水族館パラダイス」という全園児が参加できて楽しめる企画を年長の子どもたちが中心となって考え、色々な意見を出し合いながら準備を進めることで、年長児としての自覚のようなものも感じられ、クラスとしてのまとまりが出来てきた。コロナの影響でなかなか異年齢での交流が持てなかった分、この企画で小さいお友だちと一緒に遊んだり、遊び方を教えてあげたりすることで、自分よりも小さい子への存在がより身近なものとなったように感じる。</li> <li>・年齢に応じた関わり方についての気付きがあり、年長児たちが話し合いを通じて変えていくことは大きな成果に繋がったといえる。これまでは大人から与えられることが大半であったが、小さい子たちに渡したときの相手の喜ぶ顔を想像しながらプレゼント製作をする姿も見られ、他者への恵愛の気持ちが育まれているように感じた。</li> </ul> <p>異年齢交流を通じて、双方共にたくさんの学びを持てたことが今後の日常生活においてもよい繋がりととして継続できることを願っている。</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「モンテッソーリ教育」を基盤として保育を実践される中で、コロナウィルスの影響により活動が制限され、遊びの用具やグループの活動の仕方など様々な工夫と苦心をされていた。</li> <li>・「異年齢」の子どもたち同士の関わりによって、社会性の基本であるコミュニケーション能力を育てていくという、園の特長を大切に今後努力を継続していただきたい。</li> </ul>